

子どもたちの学びと進学支援 学力と奨学金制度の充実

【小中学校の学力と数学検定の導入】市の学力調査では、小学生は全国平均以上ですが、中学生では数学・英語で課題が見られます。市はAIドリルや放課後の「学びアップ教室」で個別支援を行い、英検の受験料を補助して学習意欲を高めています。

崎尾は、数学は「積み上げて理解する学問」であり、学年という枠だけでは測れない“習熟度”に着目すべきと指摘しました。学年進行とは別に、理解の到達度を客観的に評価できる「数学検定」の導入を提案。検定を通じて、生徒が自らの理解段階を知り、次の学びへつながられる仕組みをつくることを訴えました。

また、数学検定は点数を競うものではなく、努力の過程と理解の深まりを可視化する教育ツールです。英検と同様に、結果を授業改善に活かし、教員が一人ひとりの課題を把握できるようになる点でも有効です。教育委員会は、今後の導入に向け検討を進めるとしました。

> 学年ではなく「理解の深さ」で見る教育へ。

【奨学金制度の見直しと給付型奨学金の創設】進学希望者が増える一方で、家庭の経済的負担が課題となっています。崎尾は「夢を諦めないための支援策」として、奨学資金制度の見直しと、返還不要の「給付型奨学金」の導入を提案しました。また、制度設計を幅広く議論する「検討委員会の設置」を求め、市民や教育関係者の声を反映できる仕組みを提案しました。

令和7年度から「みどりの給付型奨学金」が事業化され、高校・高専生に10万円、専修学校・大学生に20万円を入学準備金として支給します。年間予算上限は140万円で、経済的支援が必要な家庭を中心に公平な選定を行います。今後も給付対象や支給額の拡充を視野に、持続可能な支援体制を整えていきます。

また、市は制度の周知を強化し、学校や地域団体と連携した「進学支援説明会」などを通じて、支援の輪を広げていく方針です。教育と福祉の両面から若者を支え、地域全体で学びを応援する環境を整えます。

> 経済的理由で夢を諦めないまちへ。奨学金を「負担」ではなく「未来への投資」と位置づけ、誰もが安心して進学を目指せる日田市をめざします。